

2019年アセアンバイク展報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っている。2019年10月上旬にタイで開催された自転車展示会アセアンバイク展には自振協の支援により日本企業3社が出展した。同展の概要を報告する。

1. 展示会概要

タイの自転車展示会、2019年アセアンバイク展(ASEANBIKE powered by EUROBIKE 2019)は、バンコク郊外のIMPACT見本市会場にて10月3日(木)~5日(土)の3日間、開催された。来場者数は計12,556人となり、海外1,500人、タイ国内11,056人が訪れた。来場者のうちビジネス客は2,952人、一般客は9,604人であり、全体の76%は一般客であった。

出展社数は100社となった。地元タイ、台湾、中国等のアジア地域からの出展者が大半を占め、日本は6社であった。ドイツのユーロバイクが主催者に名を連ねたことにより、多数の欧州企業の参加が期待されたが、出展者はごく僅かであった。しかし、場内では欧米ブランド(サーベロ、BMC、BHバイク、エディ・メルクス等)の高額スポーツ車が見られ、地元代理店ブース等でも、それらブランドの完成車、部品・付属品の即売が行われ、商品を吟味する来場者の姿も見られた。



会場入口



場内の様子

主催： N.C.C. Exhibition Organizer Co., Ltd. (NEO)

メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社 (EUROBIKE)

開催地： タイ・IMPACT 見本市会場

会期： 2019年10月3日(木)~5日(土) ※ビジネスデー2日間、最終日一般公開

展示会場： IMPACT Exhibition Center ホール 5, 6

入場者数： 来場者 12,556 人 (海外 1,500 人、国内 11,056 人)

出展社数： 100 社

2. 自振協 (JBPI) 出展支援ブース

JBPI では今回、下記表のとおり日本企業 3 社の出展を支援した。部品・付属品類はカーボンのハンドルバーやステム、ブラケットフード等が、完成車はカーボンフレームのロードバイク、トラックレーサーが出展された。当ブースは展示会場の中央部に位置し、日本の高品質な自転車関連製品が出展される「JAPAN」ブースとして来場者の注目を集めた。



JBPI ブースの様子 (左 ; SHAKES、右 ; BOMA)

表：2019 年アセアンバイク展出展支援企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 T E L	U R L
(株)ASK TRADING BOMA	〒341-0018 三郷市早稲田 4-10-2 048-951-5820	http://www.boma.jp
アウトートップ(株) SHAKES	〒106-0031 東京都港区西麻布 3-3-3 03-6459-2828	http://www.shakes.tokyo
(株)自転車創業 FRAME	〒150-0001 東京都世田谷区玉川 1-4-6 03-5797-9250	https://bike-startup.co.jp/

3. 次回への課題

来年の日程はまだ決まっていない。NEO は引き続き 10 月開催の意向であるが、EUROBIKE の協力のもと展示会を維持できるか現状は不透明である。

IMPACT 見本市会場は、展示会場としての設備が整いホテルに直結しているが、バンコク中心部からは離れており、鉄道網の接続もなくやや不便な場所にある。その点が、期待されたほどビジネス客の来場数が伸びなかった一因と思われる。国際展示会を目指すならば、会場まで無料シャトルバスを運行する等、集客に向けた努力が次回への課題である。

IMPACT の他ホールでは大規模な家電・生活用品の即売展とペット用品展が開催され、両展会場には多くの人々が集まっていた。両者に比べ ASEANBIKE 開催に関する案内表示等は少なかった。また、出展者リスト等の資料配布、会場案内フロアマップ掲示等、情報提供も十分

ではなく、全般的に主催者による広報周知が不足している感があった。タイでは長らくバンコク自転車展 (IBKB) が毎年 6 月に開催されており、今年は規模が縮小され、ユーザー向けショーとして実施された。一方、アセアンバイクは新たなビジネスショーとして 10 月に開催されたが初回であったため、まだ十分に認知されていない面があったと思われる。今回の反省点を踏まえた改善により、広くアセアン地域をカバーする自転車業界向けのビジネスショーとして今後発展することを期待したい。

以 上